

実践事例発表レジュメ

事例研究 タイトル	富山県美術館に関する事例
実践事例名（テーマ）	博物館の個性を磨くには
事業主体（実施機関）	富山県立近代美術館
連携・協力機関等	
発表者	雪山 行二

期日 平成 28 年 12 月 1 日

内 容

富山県立近代美術館（1981年7月開館）は今年の12月28日に閉館し、JR富山駅北側の環水公園に建設中の建物（内藤廣建築設計事務所）に移転したのち、来年8月26日、「富山県美術館アート&デザイン」という新しい名称の下に全面開館する予定である。

この移転新築を決めた最大の原因は、現在の建物の耐震強度の不足と、あの3.11の東日本大震災であった。耐震強度のほか空調と消火設備の欠陥は当館にとって永年の懸案であったが、この決定は短期間の集中審議により2013年の春に下された。このように当館の移転新築は、施設の構造的欠陥と老朽化への対処というハード面の問題が先行したため、ソフト面については必ずしも十分な討議がなされていたとは言いがたい。新しい美術館をつくるということは、今日の美術ないしは芸術の在り方を問い、美術館とそれを支える社会との関係を再構築するための、未来へ向けてのヴィジョンをつくることが不可欠である。

今回の学芸員専門講座では、富山県立近代美術館の35年の歴史から我々が何を学び、その成果を今日の社会のなかでいかに発展させようとしているのか、等々、この約3年半のあいだに我々が作り上げてきた新美術館のヴィジョンについて具体的に紹介したい。